

川越地方のサツマイモ商品文化 「世界一宣言」

サツマイモ関連商品の種類の多さと 歴史文化の幅広さで世界一!!

川越地方の人々は、「川越いも」ブランドの歴史的名称のもと、川越地方で多様なサツマイモ商品が数多く**観光資源**として売られていることは当たり前だと思っていますが、これは**全国的かつ世界的にみても、大変特異なことで、「商品文化については世界一」**と言っても過言ではありません。そのことに改めて気付いていただきたいため、関係者一同で「世界一」を宣言します。

注) 客観的な資料「川越地方のサツマイモ商品文化実態調査」をご覧ください。

宣 言 日	2018 年 8 月 30 日
宣言団体	川越サツマイモ商品振興会 / 川越いも友の会 / 川越いも研究会 / 三芳町川越いも振興会
協力機関	小江戸川越観光協会 / 川越産農産物ブランド化連絡会

旧川越藩だった川越地方の武蔵野台地の畑作地帯で栽培されるサツマイモのことを、昔から「川越いも」と言いますが、その川越いもは約 270 年の長い歴史があり、今もその歴史的ブランド名は健在です。川越地方がサツマイモ栽培の大生産地だった過去に比べ、現在の生産量は 10 分の 1 以下にもなっていますが、川越の観光地を歩けば、数多くの店で驚くほど多種多様なサツマイモ商品が売られ、珍しいサツマイモ料理などを出す店があったりします。行列ができる人気のお店も、サツマイモ商品だったりします。**川越地方は、サツマイモを観光文化資源にした大消費地・販売地となっています。**

現在、川越いもの本場・三芳町上富には**日本で唯一の「いも街道」**があり、**120 年も続く文化財的な伝統品種「紅赤」**を各農家が生産保存しています。「川越いも作り始め」などのサツマイモに関する史跡も残り、文化的な行事（「**世界一のいも掘りまつり**」や、サツマイモの日の「**いも供養**」など）も行っています。さらに 100 年以上続く、川越地方ならではの文化財的な名物菓子「**芋せんべい**」も根強く生き残っています。川越市の**ゆるキャラ「ときも」**は「紅赤」をモチーフにしている、とてもユニークです。

世界で唯一の「サツマイモ資料館」があったころには、国内はもとより世界各国からサツマイモ関係者が視察に訪れました。今でも、サツマイモで町を活性化したい生産地から、商品化のヒントを求めて視察にやってきます。

海外の多くのサツマイモ関係地を探訪しているトップクラスのサツマイモ研究者が判断しても「川越地方は、サツマイモ商品文化が大変に特異で、世界的に見てもとても珍しい」と言及しています。